Rethink フォーラム

視点を変えれば、世の中は変わる。

たとえば
半分だけ水の入ったコップを見て、
もう半分しかない、と思うか、
まだ半分もある、と思うか。

視点を変えれば、
世の中の見え方は変わってきます。
当たり前だと思っていたことでも、
違う視点から見つめ直してみると、
新しい発見があることがあります。

Rethinkフォーラムは、
一人では気づけない
新しい視点に気づくことで、
地域活性化のきっかけを見つける場です。

視点を変えれば、世の中が変わる。
地域が変わる。
未来を変える発見は、
意外と身近に
あるのかもしれません。

「Rethink フォーラム～視点を変えれば、世の中は変わる。」（神戸新聞社主催、兵庫県、兵庫県教育委員会など後援、Rethink PROJECT協賛）が10月27日、神戸市のホテルオークラ神戸で開かれました。第1部はプロフィギュアスケーターの村上佳菜子さんが「フィギュアスケートを通じて」と題してトークショーを、第2部では兵庫県の齋藤元彦知事とアイナックフットボールクラブ株式会社の安本卓史社長、進行役のフリーアナウンサー・川邊暁美さんが加わり、「Rethink 兵庫 ～スポーツの力で人生を豊かに～」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

ゲスト

村上（むらかみ） 佳菜子（かなこ） 氏（プロフィギュアスケーター）

演題：フィギュアスケートを通じて

プロフィール：1994年、愛知県生まれ。2009年のジュニアグランプリファイナル、10年の世界ジュニア選手権で優勝。2014年ソチオリンピック出場。同年の４大陸選手権で優勝。17年に引退。現在はプロフィギュアスケーターとして活躍。

達成感がモチベーションに

小さい頃は、6歳離れた姉のすること、持っているものをすべて欲しがる“ジャイアン”のような子どもで姉とも対等にけんかをしていました。フィギュアスケートを始めたのは3歳の頃。始めは公園の代わりにリンクで遊んでいる感覚でしたが、次第にリンクの上で遊んでいると「練習をしなさい」と母によく怒られ、当初はスケートが嫌いでした。でも、新しいジャンプが飛べたときの達成感は何物にも代えがたく、試合でも結果が出せるようになり、続けるモチベーションになりました。しかし将来の夢を聞かれてもオリンピックに出場より、「満知子先生（山田満知子コーチ）になりたい」と言うような子どもでした。

毎日がスケート漬けで友達と遊ぶ時間をつくることがあまりできませんでしたが、高校はスポーツクラスに進学し、同じようにスポーツに打ち込んでいるクラスメイトばかりで、学校が大好きでした。海外の試合で優勝して帰ってきたときにクラスの全員が拍手で迎えてくれたのはうれしかったです。

4つ上の浅田真央さんは同じ山田先生に師事し、高校、大学も同じでした。お姉ちゃん的な存在であり、あこがれの選手でもあり、多くのものを吸収させてもらいました。

「Rethink」で掴んだチャンス

競技人生のなかで、「Rethink」につながる試合だったと思えるのは、ソチ五輪出場を決めた全日本選手権です。シーズンに入るときに先生と一緒に決めたショートプログラムの曲にいつまでも自分のリズムが合いませんでした。全日本選手権の2週間前に開かれた小さなショートの大会でも成績が振るわず、そのタイミングで先生と別の曲に変えることで意見が一致しました。その日の夜中に振り付けを考え、残りの2週間は詰めに詰めて練習をし、出場権を獲得しました。大半の選手はシーズンの最初に決めた曲を、試合を重ねながら磨き上げていくのですが、まさにぶっつけ本番でした。ふだんは優柔不断な私ですが、このときに思い切って「Rethink」ができたからこそチャンスをつかむことができたと思っています。

引退は次のオリンピックシーズンの前までとタイムリミットは決めていたのですが、ソチ五輪の後は若い選手が台頭し、負けたくないという思いで練習をしたのですが体がついてこず悔しい思いもしました。決めていたリミットギリギリの2017年の全日本選手権。演技を終えた瞬間、それまで張っていた糸がぷつんと切れ、ああこれで終わりだと感じました。できも満足でした。スタンディングオベーションで迎えられ、お父さんとお姉ちゃんも泣いていました。最後だと思いこの会場の景色を胸にしっかり焼き付けリンクをあとにしました。先生もハグで迎えてくれました。

2人の母に感謝

山田先生からはスケーターとして、人間としてたくさんのことを教わりました。小学生の時は1位になりたいという思いが強く、満足のいく演技ができなくても優勝すれば喜んでいたのですが、そのときに先生から「結果が1位でなくてもみんなから愛され、引退した後もずっとみんなの心に残る人になってほしい」と言われました。そこから人を蹴落としたいという気持ちが消え、みんながうまくいくよう願えるようになりました。そして、母は自分を犠牲にしていつもわたしの送り迎えをし、ときには叱ってくれました。母がいなければサボっていたでしょうし今の自分はなかったと思います。2人の母に感謝しています。

プロフィギュアスケーターは現役時代と違い、自分で考え、見せたいプログラムを演じられるのでやりがいを感じています。解説者としては皆さんにスケートのことをより理解して楽しんでもらえるような解説に努めています。現役時代よりルールに詳しくなりました。小学生のころはお笑い芸人になりたいと思っていたので今バラエティ番組に出させてもらえることが楽しいです。一番の夢はコント番組に出ることです。

テーマ：Rethink兵庫 ～スポーツの力で人生を豊かに～

パネルディスカッション出演者　村上 佳菜子氏（プロフィギュアスケーター）、齋藤 元彦氏（兵庫県知事）、安本 卓史氏（アイナックフットボールクラブ株式会社代表取締役社長）、モデレーター 川邊 暁美氏（フリーアナウンサー）

地域からスポーツを盛り上げる

川邊　兵庫県はあらゆるスポーツを「観る」「する」の両面で環境が整っています。それぞれの立場で注力していることは。

齋藤　2021年8月に知事に就任しました。「Rethink」し、新しく物事を考え、進めることが大切だと思っています。23年4月には、県教育委員会が所管していたスポーツ行政を知事部局に移し、スポーツの力を地域の活性化に生かそうとしています。

安本　5年前にヴィッセル神戸の常務からINAC神戸の社長に転じました。女子サッカーは2021年からプロのWEリーグが発足しINAC神戸はその1シーズン目で優勝しました。地域からスポーツを盛り上げていきたいと思っています。

村上　兵庫県は世界選手権優勝の坂本花織選手、グランプリファイナル優勝の三原舞依選手、アイスダンスで高橋大輔選手と組まれた村元哉中さんもおられ、エネルギッシュ、クリエイティブな選手を輩出されている印象を持っています。

生でスポーツに触れる機会を

川邊　スポーツを「観る」という観点から県ではどのようなことに取り組んでいますか。

齋藤　さまざまなプロチームと連携し、子どもたちを無料で試合に招待しています。生でスポーツに触れることで競技人口のすそ野が広がればと期待しています。プロバスケットボールチーム、神戸ストークスの本拠地となる1万人収容の神戸アリーナも25年4月の開業に向け建設が進んでいます。

安本　震災から20年が経過した2015年1月17日に開いたヴィッセル神戸のチャリティマッチには2万4千人ものお客さんが来てくださいました。「震災の日は嫌いやったけどこの日に試合をしてくれてありがとう」とお客さんに言ってもらえました。JTマーヴェラスが子ども向け教室を開いていることを聞きINACでも始めたところ生徒数が270人にまで増えています。あの選手になりたいというきっかけを与えられればと考えています。

村上　フィギュアスケートはかつての黄金時代から比べるとテレビで放送される機会が減っています。すそ野を広げるにはなにより触れてもらうことが大事。身近で滑れる環境がもっと増えたらいいなと思っています。

齋藤　現在県立高校のスポーツ施設の充実に6年間で300億円を投じています。その一つがグラウンドの人工芝化です。学校の部活動だけでなく、地域に開放していくことも考えています。

川邊　地域スポーツを発展させるためにどのような施策に取り組まれていますか。

齋藤　今朝、須磨海岸でジョギングをしながらゴミ拾いをするイベントを開催しました。

JTさんには、「Rethink PROJECT」の一環として協力いただきました。こうしたイベントが県内に広がればよいですね。県の施設で空いているスペースをテニスの壁打ちやフットサルができるよう変えていこうとも考えています。

安本　日本のスポーツの人気は国際大会の結果で左右されます。そこにひきずられないようにするためにも地域に愛される努力が欠かせません。神戸市の各区に出向いてサッカー教室も開いていますが、今後は県内の各所にも出向いていきたいですね。

村上　私は、多くのオリンピアンを生んだ設備の整ったスケート場で練習していました。ただ、施設も現状に甘んじるのではなく進化していく必要があります。自然エネルギー由来の電気を使い、貯めた雨水で氷をつくるSDGｓに配慮したリンクができたらいいなと思っています。

齋藤　大切な視点ですね。スポーツイベントの入場料に数百円をオンして、それをCO2排出権取引に充てるなど、無理なく地球温暖化防止に貢献する手法も増えていけばよいなと思います。

「Rethink」で可能性を広げる

川邊　ご来場いただいた方々へひと言メッセージを。

齋藤　「Rethink」の視点で、観る、参加する機会を増やし、スポーツだけでなくビジネス、勉強の分野も含め可能性を育て、世界に挑戦する子どもを増やせる場を提供していきます。

安本　これからも「Rethink」しウェルビーイングの視点も取り入れながら、多様性が求められる社会で前例がないことにチャレンジしていきます。

村上　引退後は新たな視点でスポーツを観ることができるようになりました。わたしにしかできないこと、伝え方でスポーツが盛り上がるように発信していけたらと思います。

主催／神戸新聞社　後援／兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、神戸商工会議所　協賛／Rethink PROJECT

Rethinkフォーラムホームページ　https://rethink-pjt.jp/forum/index.html
※Rethink PROJECTはJTがパートナーシップを基盤に取り組む地域社会への貢献活動の総称です

Rethinkフォーラム　検索